

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 7年11月 4日
09時06分35秒

評価年度 令和 6年度 進捗区分 1次評価

所属 0001231510 こども発達支援課施設管理係

事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

電話番号 77-7795

【基本情報】

計画次数	03 第9次安城市総合計画			
重点戦略	001 しくみ			
分野別	001 1子育て			
施策の取組	004 子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	004 子ども発達支援センター施設管理事業			
事業期間	平成30年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
重点戦略		マニフェスト		
根拠法令等	安城市子ども発達支援センターの設置及び管理に関する条例			
備考				

【事業分析】

対象	施設利用者が
目的	気軽に安心して施設を利用することができるようになります。
手段	施設利用者が快適に過ごすことができるよう、施設の適切な管理運営を行います。
事務内容	施設の適正管理、建物・備品等の修繕、図書業務等

【コスト】

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	67,799	75,986	61,732
事業費	54,599	62,586	47,732
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	54,599	62,586	47,732
人件費計	13,200	13,400	14,000
正規(人)	2.00	2.00	2.00
その他経費	0	0	0

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
【事務事業活動実績】	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務、職員駐車場整備	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務、通園バス2台更新	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務予定

事務事業評価シート（2/2）

2頁
令和7年11月4日
09時06分35秒

評価年度 令和6年度 進捗区分 1次評価

所属 0001231510 こども発達支援課施設管理係

事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値				
指標名	単位	令和5年度	令和6年度	令和7年度
修繕実施件数	件	20.00 9.00	0.00 15.00	15.00 0.00
施設管理に係るクレーム(意見等含む)件数	件	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00

【定性評価】

ランク	基準	評価の観点	カテゴリ
1	国・県・民間等がサービスを行っていない	国・県・民間等との補完性	必要性
	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある		
	国・県・民間等が同様のサービスを行っている		
1	市民ニーズは充分にある	市民ニーズの有無	必要性
	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している		
	市民ニーズはない又は不明である		
1	安心安全に利用してもらうため、施設の適切な管理が必要です。	目標に対する進捗状況	有効性
	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		
	目標を下回る進捗状況である		
1	進捗はかなり遅れている		
	支障無く施設の管理を行うことができています。	事業の効率化・事業費の削減	効率性
	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		
2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる		
	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない		
1	経費削減が図れるよう効率的な運営に努めています。	事業規模・サービス水準	公平性
	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		
	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。		
1	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
理由	施設規模に応じた適切な管理を行っています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	当事業では、利用者が安心して過ごせる環境を提供するため、施設管理に努めてきました。令和6年度では、サルビア学園の通園バス2台を更新し、置き去り防止装置を設置することで、安全で安心な運行体制を整えました。子ども発達支援センターあんステップは、発達相談支援室、やまびこルーム、サルビア学園及び地域交流図書コーナーがあり、様々な市民が利用する施設です。特に未就学児の利用が多いため、今後も必要に応じて施設の修繕を行うなど、安全面に十分配慮した施設管理を継続していきます。
2次コメント (400文字)	

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1 頁
令和 7年11月 6日
17時32分53秒

評価年度 令和 6年度 進捗区分 1 次評価
所属 0001231520 こども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

電話番号 0566-77-7796

【基本情報】

計画次数	03 第9次安城市総合計画			
重点戦略	001 しくみ			
分野別	001 1子育て			
施策の取組	004 子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	005 子ども発達相談支援事業			
事業期間	平成30年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	義務的 / 政策的	性質別費目
重点戦略		マニフェスト		
根拠法令等	母子保健法・児童福祉法・障害者総合支援法・学校保健法・学校教育法			
備考				

【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある18歳までの子ども、その保護者並びに関係する各機関
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります。
手段	専門職による面接相談、電話相談、保育園等へ出向いての訪問相談、集団指導、保護者支援、グループ支援
事務内容	発達相談、就学相談、訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月児健診事後指導会（親子教室）、ペアレント・プログラム教室、ソーシャルスキルトレーニング教室の実施継続

【コスト】

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト			
事業費			
国庫支出金	175,489	179,935	206,569
県支出金	76,489	79,435	94,569
地方債	1,531	1,701	1,913
その他	765	850	956
一般財源	0	0	0
人件費計	30,528	40,407	47,000
正規（人）	43,665	36,477	44,700
	99,000	100,500	112,000
	15.00	15.00	16.00
その他経費	0	0	0

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
【事務事業活動実績】	発達相談（面談）2395件、就学相談806件、訪問相談125回、障害児（特定）相談支援事業5135件、1歳6か月事後指導会48回、ペアレント・プログラム教室26人、SST教室6	発達相談（面談）2456件、就学相談832件、訪問相談121回、障害児（特定）相談支援事業5696件、1歳6か月事後指導会47回、ペアレント・プログラム教室23人、SST教室6	発達相談、就学相談、訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月事後指導会、ペアレント・プログラム教室、SST教室予定

事務事業評価シート（2/2）

2頁
令和7年11月6日
17時32分53秒

評価年度 令和6年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231520 こども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

【定量評価】

指標名	単位	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教室内容の満足度	%	90.00 100.00	90.00 100.00	90.00 0.00
教室参加後変化ありの割合	%	80.00 100.00	80.00 100.00	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1 必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない 2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
2 理由	実施機関が少ないため継続して実施していきます。		
2 必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある 2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 3 市民ニーズはない又は不明である	1
2 理由	子育て中の市民のニーズがあります。		
3 有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 2 目標を下回る進捗状況である 3 進捗はかなり遅れている	1
3 理由	目標を上回っています。		
4 効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
4 理由	事業運営の工夫等に取り組んでいます。		
5 公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
5 理由	環境変化に応じた事業運営に努めています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	こどもの発達支援は生後から18歳まで切れ目のない支援が必要であるため、子どもの人口が減少しても支援に従事する専門職の増員、確保を含めた支援体制の充実が大きな課題です。引き続き関係機関と協議や連携をし、よりよい支援体制を目指していきます。 また、SST教室やペアレントプログラムは、実施機関が少ないため継続して実施していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和7年11月4日
09時16分27秒

評価年度 令和6年度 進捗区分 1次評価

所属 0001231530 こども発達支援課療育係

事務事業 02481 やまびこルーム事業

電話番号 0566-77-7912

【基本情報】

計画次数	03 第9次安城市総合計画			
重点戦略	001 しくみ			
分野別	001 1子育て			
施策の取組	004 子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	006 やまびこルーム事業			
事業期間	平成3年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
重点戦略	マニフェスト			
根拠法令等	児童福祉法、知的障害者福祉法			
備考				

【事業分析】

対象	子どもの発達に不安のある親とその子どもが、
目的	子どもの発達の特性を理解し、親子共に成長していくことを目的とします。
手段	子どもの発達に不安のある親とその子どもが、地域の中で安心して生活するための相談や療育支援をします。
事務内容	親子グループ指導（1～3歳程度の乳幼児、0～5歳程度の未歩行児及び重症心身障害児）、就園後の療育支援、行事（父親参加、保護者向け研修会など）

【コスト】

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	48,098	56,813	62,355
事業費	21,698	23,313	27,355
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	173	181	460
一般財源	21,525	23,132	26,895
人件費計	26,400	33,500	35,000
正規（人）	4.00	5.00	5.00
その他経費	0	0	0

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
【事務事業活動実績】	集団療育・親子遊びを実施しました	実施数：708回 参加人数：135組 発達に何らかの心配がある親子が集団療育や親子遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけられるよう支援しました	発達に何らかの心配がある親子が集団療育や親子遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけられるよう支援していきます

事務事業評価シート（2/2）

2頁
令和7年11月4日
09時16分27秒

評価年度 令和6年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231530 こども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値				
指標名	単位	令和5年度	令和6年度	令和7年度
療育訓練参加者数	人	122.00 122.00	0.00 135.00	100.00 0.00
療育訓練参加者数 / 療育訓練希望者数	%	100.00 100.00	0.00 100.00	100.00 0.00
療育内容に対する満足度	%	80.00 100.00	0.00 98.00	80.00 0.00

【定性評価】

ランク	基準	評価の観点	カテゴリ		
1	国・県・民間等がサービスを行っていない	国・県・民間等との補完性	必要性		
	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある				
	国・県・民間等が同様のサービスを行っている				
1	親子療育は県、民間が行っていないため、補完が必要な事業です。				
	市民ニーズの有無				
	市民ニーズは充分にある	市民ニーズの有無	必要性		
1	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している				
	市民ニーズはない又は不明である				
1	参加人数が増えています。				
	目標に対する進捗状況				
	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	目標に対する進捗状況	有効性		
1	目標を下回る進捗状況である				
	進捗はかなり遅れている				
2	予定通り事業を進めています。				
	事業の効率化・事業費の削減				
	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	事業の効率化・事業費の削減	効率性		
2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる				
	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない				
1	勉強会やケース検討等、療育の資質向上のために取り組んでいます				
	事業規模・サービス水準				
	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	事業規模・サービス水準	公平性		
1	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。				
	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。				
1	他の自治体より手厚くサービスを行っています。				

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	発達に心配がある事を保護者が初めて意識する時なため、否定や不安な気持ちを保護者だけで抱える事が無いよう支援していく場は大切です。また、遊びや活動を通して親子共に成長を促していく支援場所が必要なため事業を継続していく必要があります。
2次コメント (400文字)	

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。
2次コメント (400文字)	

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 7年11月 4日
09時32分24秒

評価年度 令和 6年度 進捗区分 1次評価

所属 0001231540 こども発達支援課通所係

事務事業 02480 サルビア学園事業

電話番号 0566-77-7797

【基本情報】

計画次数	03 第9次安城市総合計画			
重点戦略	001 しくみ			
分野別	001 1子育て			
施策の取組	004 子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	007 サルビア学園事業			
事業期間	昭和50年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
重点戦略		マニフェスト		
根拠法令等	児童福祉法、安城市立サルビア学園の設置及び管理に関する条例			
備考				

【事業分析】

対象	知的障害等のある幼児の
目的	社会生活への適応能力を養います。
手段	【児童発達支援事業】知的障害等のある幼児を日々保護者のもとから通園させ、日常生活に必要な基本的事柄を身につけられるよう療育支援します。 【保育所等訪問支援事業】保護者からの依頼により保育所等の施設を訪問し、本人と施設スタッフに必要な専門的助言を行い、児が集団生活に適応できるよう支援します。
事務内容	園児（知的障害等のある概ね3歳から就学前までの幼児）の日々の療育、入園児童の受付・決定事務、遠足・運動会・クリスマス会などの親子行事、保育所等への訪問支援など。

【コスト】

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト			
事業費	125,625	136,589	152,709
国庫支出金	46,425	56,189	61,709
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	46,425	56,189	61,709
一般財源	0	0	0
人件費計	79,200	80,400	91,000
正規（人）	12.00	12.00	13.00
その他経費	0	0	0

	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
【事務事業活動実績】	4月54人（新入22人） 途中入園 7人 年間実人数 61人 移行（転出含む）・卒園 27人 保育所等訪問支援 5件	4月55人（新21人） 途中入園 5人 年間実人数 60人 移行（転出含む）・卒園 27人 保育所等訪問支援 3件	4月51人（新18人） 予定

事務事業評価シート（2/2）

2頁
令和7年11月4日
09時32分24秒

評価年度 令和6年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231540 こども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値				
指標名	単位	令和5年度	令和6年度	令和7年度
サルビア学園入所児童数	人	50.00 54.50	0.00 53.80	50.00 0.00
サルビア学園待機児童数	人	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
訪問支援サービス利用契約数	件	4.00 6.00	0.00 3.00	4.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1 必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	受け入れできる機関が少ないため、市で補完する必要があります。		
2 必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	一定数の利用児がいます。		
3 有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標通り事業を進めています。		
4 効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	療育の資質向上のために取り組んでいます。		
5 公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	ガイドラインに則り一貫性のある療育を提供しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続 支援が必要な児童を受け入れ、必要な療育支援を行いました。保育所等訪問支援事業は、3件の申し込みに対し延べ18回の訪問支援を行いました。 外国にルーツをもつ児童の受け入れは、コミュニケーションの問題から支援方法に課題はあるが、17名（全体の28%）を受け入れて必要な療育支援を行いました。今後も様々なツールを駆使して適切な事業運営を行っていきます。
1次コメント (400文字)	

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施 本事業においては、2次評価を実施していません。
2次コメント (400文字)	